

Redelsperger, J.-L., P. R. A. Brown, F. Guichard, C. Hoff, M. Kawashima, S. Lang, T. Montmerle, K. Nakamura, K. Saito, C. Seman, W. -K. Tao and L. J. Donner, 2000 : AGCSS model intercomparison for a tropical squall line observed during TOGA-COARE. I : Cloud-resolving models, Quart. J. Roy. Meteor. Soc., **126**, 823-864.

Siebesma, A. P., C. Jakob, G. Lenderink, R. A. J.

Neggens, J. Teixeira, E. van Meijgaard, J. Calvo, A. Chlond, H. Grenier, C. Jones, M. Kohler, H. Kitagawa, P. Marquet, A. P. Lock, F. Muller, D. C. Olmeda and C. Severijns, 2004 : Cloud representation in general-circulation models over the northern Pacific Ocean : A EUROCS intercomparison study, Quart. J. Roy. Meteor. Soc., **130**, 3245-3267.

第16回大気化学シンポジウムのお知らせ

名称：第16回大気化学シンポジウム

主催：大気化学研究会，名古屋大学太陽地球環境研究所

協賛：日本気象学会，大気環境学会，日本化学会，地球化学会，地球電磁気惑星圏学会，エアロゾル学会

日程：2006年1月11日（水）-13日（金）

場所：豊川市民プラザ（愛知県豊川市）

名古屋鉄道豊川線諏訪町駅より徒歩3分，あるいはJR飯田線豊川駅よりバス・タクシーにて約10分「豊川体育館前」下車

内容：地球大気対流圏および成層圏の化学・力学過程についての観測・実験・モデリング・データ解析などによる研究結果を口頭ならびにポスター発表により議論する。一般の発表に加えて下記の特別セッションを行う。

特別セッション「大気組成の数値予報～現状とこれから～」

コンピーナー：庭野将徳（地球フロンティア）
岩崎俊樹（東北大学）

趣旨：大気化学輸送モデルの発展に伴い，紫外線予報，黄砂予報，大気汚染予報などの各種予報（数日スケール）が可能になってきた。しかしながら，比較する観測網が脆弱であることから予報精度の議論が難しく，気象予報のように社会的地位を確立していない状態である。このセッションでは，(1) モデルの検証に必要な誤差成長や予測可能性の理論，(2) 予報に重要な輸送過程について現状と問題点，(3) 正確な予報に必要な包括的かつ継続的な観測網のあり方，等の内容を予定している。

詳細のホームページ：

<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/>

連絡先：〒442-8507 豊川市穂ノ原3-13

名古屋大学太陽地球環境研究所 第一部門松見研究室 大気化学シンポジウム係

Tel : 0533-89-5192, Fax : 0533-89-5593

E-mail : taikiken@stelab.nagoya-u.ac.jp